

在来線運転士用タブレット端末「CAST」の使用開始について

11月28日（火）より、在来線運転士の業務を支援するために、タブレット端末を順次導入し、平成30年3月までに在来線全線で使用を開始します。これにより、さらなる安全性の向上と輸送障害への対応の迅速化を実現します。

1. 在来線運転士用タブレット端末「CAST」の主な機能【別紙】

(1) 電子データによる情報伝達

口頭で行っている指令員から運転士への情報伝達を、端末に文字情報として表示し、さらなる安全性の向上と情報伝達の迅速化を図ります。

(2) GPSによる運転操縦支援

速度規制区間などを画面上の表示と音で運転士に知らせることにより、さらなる安全性の向上を図ります。

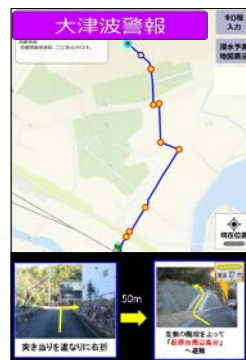
(3) 津波避難誘導の迅速化

津波警報等を自動で受信するほか、津波避難マップとGPSにより、最寄りの避難ルートを表示し、津波発生時の避難誘導の迅速化を図ります。

○タブレット端末の画面表示例（イメージ）



情報伝達時の表示例
※速度規制区間に近づく
画面上の表示と音で伝達



津波避難経路の表示例
※GPSにより現在地を把握し、
周辺の避難マップを表示

2. 在来線運転士用タブレットの名称について

運転士が安全・安定輸送における重要な「役目」を担っていることの意味と、運転士業務支援の意味を掛け合わせ、「CAST（キャスト）」としました。

※CAST=Crew Assistance System Tokai

3. スケジュール（予定）

11月28日（火）から 中央本線・身延線・御殿場線に導入し、一部の機能について使用を開始します。

平成30年3月末までに在来線全12線区で938台を導入し、全ての機能について使用を開始します。

(1) 電子データによる情報伝達

雨・風などの規制情報を、タブレット端末に送信

【現状】



- ・口頭により列車ごとに伝達
- ・運転士は内容をメモ

【導入後】



運転士画面



- ・文字情報として一斉に伝達
 - ・運転士は画面上で内容を確認
- ⇒ **確実かつ迅速な情報伝達が実現**

(2) GPSによる運転操縦支援

【従来の取扱い】



帳票

4	運転規制 (徐行)	降雨 (強風) 地震・雪崩・徐行 (理由:)
	尾張町 ~ ひだ駅	速度 45 km/h
	キロ程 k m ~ k m	

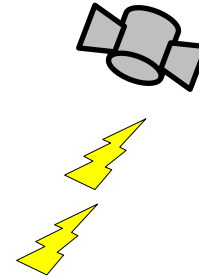
運転士



- ・ 情報を記載した帳票をもとに、運転士が注意して運転

【支援機能の追加】

GPS



規制区間を表示

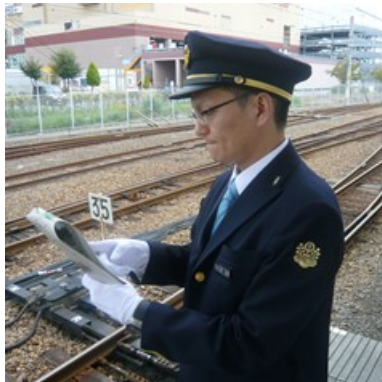
徐行区間等

- ・ GPS情報を活用し、徐行区間に近づくと、画面上の表示、音で知らせる

⇒画面上の表示・音による支援機能により、さらなる安全性の向上を図る

(3) 津波避難誘導の迅速化

【現状】

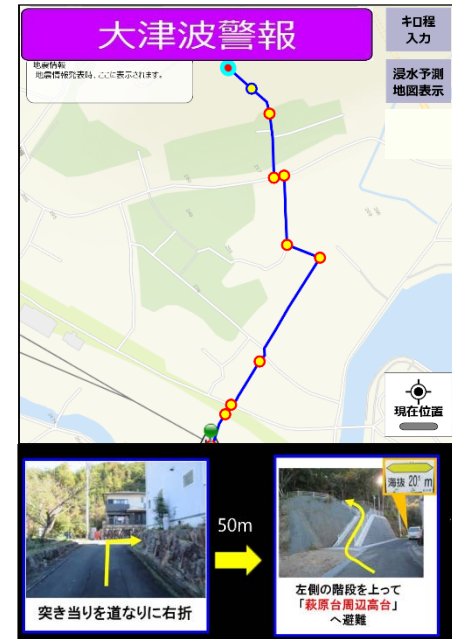


- ・指令員から運転士へ、津波情報を伝達
- ・避難マップ(紙)により避難ルートを案内

【導入後】



運転士



最寄りの避難経路を表示

- ・津波警報等を自動受信
- ・電子化した津波避難マップとGPSにより、最寄りの避難ルートを案内

⇒ 避難誘導の迅速化